

経済建設常任委員会所管事務調査報告書

1. 調査年月日

令和5年7月27日（木）午前9時～午前12時

2. 所管事務調査項目

- (1) 北部環状線（市道118号線）について【土木課】
- (2) 土と火の里公園について【商工観光課】

3. 調査選定理由

(1) 北部環状線（市道118号線）について

北部環状線は、慢性化している主要地方道藤岡本庄線の渋滞が緩和され、市内の交通網の充実が期待できる事業である。2期工区については令和5年度暫定開通予定となっていることから、この事業概要と工事の進捗状況、また今後の予定について調査及び現地確認を行った。

(2) 土と火の里公園について

土と火の里公園は、15年程前より、来場者数が減少してきており、検討部会を設置するなどして、運営について検討をしてきている。新たなメニューを検討し、手作りピザプランの導入等様々な工夫をする中、来場者数が若干増えているとのことで、所管委員会として確認したく、本調査を実施した。

北部環状線（市道118号線）について

事業概要

北部環状線は、都市間の移動・物流強化の基盤整備により工業誘致の促進など、産業振興に寄与し、また、市街地の交通混雑の緩和、地域の利便性向上を目的として計画された。

全体計画（2期工区）

- ・延長 L = 1, 070 m
- ・幅員 W = 18 m（歩道4.5 m × 2）
- ・事業費 11億円
- ・事業期間 平成25年度～令和5年度暫定開通

- ・用地買収 33名、77筆、面積14,640㎡
- ・進捗率 71.4% (令和4年度末時点)

事業経過 (事業費)

- ・平成25年度 測量設計業務等 (24,496千円)
- ・平成26年度 流末水路工事・用地買収等 (59,863千円)
- ・平成27年度 流末水路工事・用地買収等 (74,509千円)
- ・平成28年度 流末水路工事・用地買収等 (90,805千円)
- ・平成29年度 流末水路工事・道路新設工事・用地買収等 (71,821千円)
- ・平成30年度 道路新設工事・用地買収等 (77,088千円)
- ・令和元年度 道路新設工事・用地買収等 (88,252千円)
- ・令和2年度 道路新設工事 (61,556千円)
- ・令和3年度 道路新設工事・用地買収等 (198,070千円)
- ・令和4年度 道路新設工事・測量設計業務等 (53,744千円)
- ・令和5年度 道路新設工事 (109,534千円 ※予定額)

事業費累計 909,742千円 ※令和5年度末予定

令和5年度事業内容

- ・①道路新設工事 L=300m (北側:産業道路交差点+本線工事) R5年8月発注予定
- ・②道路新設工事 L=120m (南側:既設市道交差点) R5年6月発注済
- ・用地買収 3件 (産業道路交差点右折帯) R5年7月契約済

令和5年度末残事業 (南側交差点~1期終点までの区間)

- ・用地買収 2名、4筆、面積742㎡ 補償物件あり
- ・工事 L=160m

所感

北部環状線の事業概要と進捗状況について執行部に説明を求め、担当職員から令和4年度末で約71.4%の事業が進み、令和5年度中には暫定ながら供用開始ができると説明を受けました。この事業により、渋滞が慢性化している主要地方道藤岡本庄線の渋滞が緩和され、市内の交通網が充実し、地域の活性化へと期待できます。まだ用地交渉を行う部分も残っていますので、十分な説明を行いながら進めることを求めます。また、暫定のため歩道が途切れてしまう部分も発生しますので横断歩道を適正に整備するなど利用者の安全を確保していただきたいと思います。早期の開通と市民の方に迷惑の掛からないよう配慮した工事の施工を期待します。

北部環状線（市道118号線）整備中区間を調査するにあたりこれまでの努力とこれからのハードルの高さを確認しました。しかし、この北部環状線の全線開通が藤岡市に大きなメリットを生むのも確信しました。明るい未来に向けて長く険しいものになりますが、円滑かつ迅速そして確実に進んでいけばと願います。

暫定的な開通は喜ばしいものの、信号機の設置や歩道の未整備区間など安全面に心配が残る。また、現在整備中の工区からその先の次期工区の整備についても前向きに考えていかなければならず、今回の工区だけでは計画路線としての効果は十分に発揮されない。次期工区の整備により、今回の工区の終点部への信号機についても設置の可能性が生じる。

このほどの経済建設常任委員会の所管調査を北部環状線について事業概要と進捗状況について説明を求めました。担当職員から令和2年度の見込みで約93%の事業が進み、令和4年度からの供用開始ができると説明を受けました。この事業により、渋滞が慢性化している主要地方道藤岡・本庄線の渋滞が緩和され、市内の交通網が充実し、地域の活性へと期待できる事業だと思います。しかし、路線の開通には道路隣接者の用地や建物等の協力を頂かねば成し遂げられないため、慎重に取り組んで頂きたいと思います。また、北部環状線の起終点は、県道路線とのT字路交差点となり前後の擦り付けにより、渋滞が心配される箇所もありますのでしっかり交差点協議を進め、問題が起きない道路を完成してください。なお、まだ用地交渉を行う部分もあると聞きましたので、十分な説明を行い進めることを求めます。早期の開通と市民の方に迷惑の掛からないような配慮した工事の施工をお願い致します。



委員会室にて説明を受ける



北部環状線（市道118号線）現地視察

土と火の里公園について

調査内容

平成5年に開園し、平成12年をピークに平成16年頃までは、来場者数も安定していたが、平成17年以降、来場者数は減少傾向となり、平成24年以降は半減、コロナ禍にあっては更に減少してしまった。

近年のアウトドア志向の影響もあり、平成30年から行っているBBQ施設の利用者は増加してきており、令和3年から、コロナ禍で集団での体験でなく、個々による体験を中心に運営し、「工芸体験」や「自然体験」、「ピザ作り体験」などを実施。Wi-Fi環境の整備、BBQ場の整備も行った。

令和4年度からアフターコロナを検討し、観光スポットになるよう園内に風鈴回廊、ハロウィン、クリスマスなど季節の装飾を行っている。少人数型のマイスプーンづくりや金継ぎ、藍を育てる教室、釜めしや夏メニュー、「ピザづくり体験」を開始するなど、様々な工夫を凝らしていることや、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まっていることもあり、入園者数は、若干上昇してきている状況である。

しかしながら物価高の影響等もあり体験者数は伸び悩んでいる。5月中旬から6月に掛けて教育旅行の利用も減少している。

今後については、土と火の里公園検討部会で、オンシーズンである8月までの利用状況や、現在のお客様のニーズや状況を把握し、今後の施設の在り方を検討していく。また、他施設の指定管理を行っている企業に、指定管理の状況や当施設の印象などを聞き取り調査し、部会を開催して今後の方針を決定する予定であることが分かった。

現地調査として、土と火の里の園内の見学と、BBQ施設とピザ釜を見学。ピザの試食も行った。ピザ窯は、職員の手作とは思えない程、本格的なピザ釜に仕上がっていた。実際にピザを作る様子を見学し味見をしたが、とても美味しく、好評の理由が分かった。

入園者、体験者数の推移									
年度	開園日数	入園者数	工芸体験者数						合計
			染色	陶芸	ガラス	竹細工	瓦	和紙	
平成5年	193	28,825	1,724	1,092	1,302	569	259		4,946
平成6年	303	37,690	1,792	1,277	993	567	236		4,865
平成7年	305	46,100	2,355	1,538	1,051	293	94		5,331
平成8年	302	44,630	2,966	1,511	1,529	366	65		6,437
平成9年	296	41,346	2,665	1,257	1,588	415	58		5,983
平成10年	304	42,331	1,311	2,768	1,528	357	99		6,063
平成11年	305	48,625	1,395	3,444	1,944	932	135		7,850
平成12年	300	49,597	1,793	3,856	2,117	784	103		8,653
平成13年	304	45,133	1,424	3,452	2,025	714	118	247	7,980
平成14年	301	42,963	1,804	3,773	1,960	837	80	419	8,873
平成15年	304	43,904	1,850	4,571	2,905	890	92	499	10,807
平成16年	306	42,039	1,738	4,224	3,276	1,074	137	705	11,154
平成17年	305	40,138	1,723	3,587	2,939	1,000	143	339	9,731
平成18年	305	41,980	1,782	3,708	3,123	1,216	163	478	10,470
平成19年	306	37,435	1,771	3,353	2,808	1,467	200	311	9,910
平成20年	304	32,231	1,578	2,639	2,573	1,173	80		8,043
平成21年	304	27,647	1,055	1,936	2,527	807	51		6,376
平成22年	304	25,569	1,410	2,095	1,964	595	113		6,177
平成23年	307	26,571	1,403	2,272	2,268	887	79		6,909
平成24年	310	21,539	1,365	1,854	1,813	597	4		5,633
平成25年	304	22,679	673	2,002	2,478	839			5,992
平成26年	303	24,176	906	1,883	2,561	949			6,299
平成27年	306	22,650	603	1,773	2,728	911			6,015
平成28年	305	22,140	1,330	2,119	3,306	422			7,177
平成29年	306	25,048	931	1,915	2,336				5,182
平成30年	305	26,926	1,864	598	2,546				5,008
令和元年	275	29,947	1,849	1,158	2,040				5,047
令和2年	259	14,303	1,338	886	1,372				3,596
令和3年	265	17,311	1,188	583	1,395				3,166
令和4年	304	21,075	1,345	519	1,491				3,355

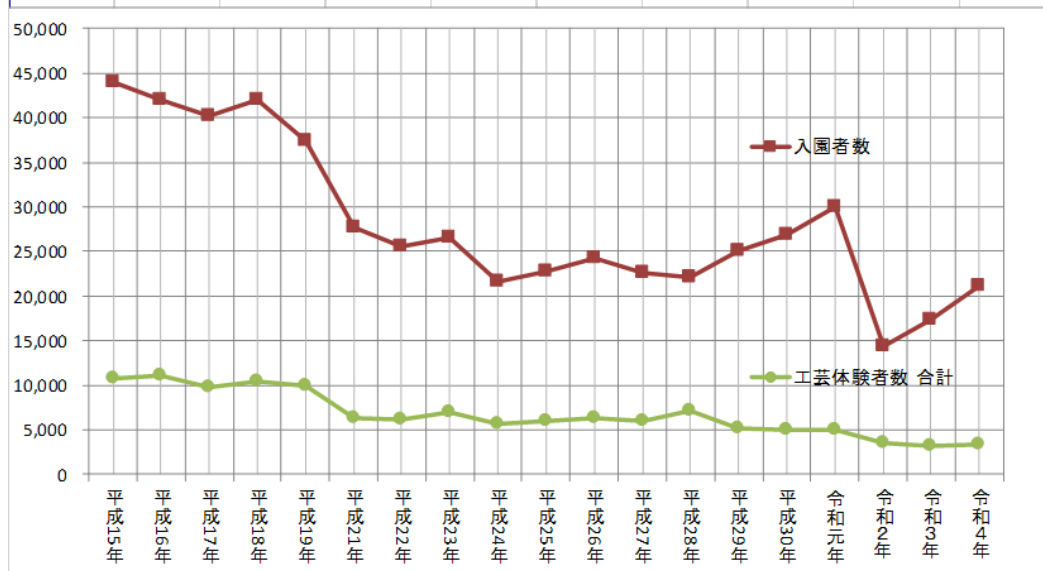
※平成5年は8月から3月まで（平成5年7月31日開園）

※令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年2月29日～3月31日まで休園

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月9日～5月31日まで休園

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年8月20日～9月30日まで休園

入園者数と体験者数の推移



所感

調査する中で、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まっていることもあるが、担当課による様々な努力により、リピーターの増加や、来園者数の増加に繋がっていることが拝察できた。しかしながら、物価高の影響等もあり体験者数は伸び悩んでいる状況があり、今後の施設の在り方を検討していく必要があることは否めない。昨今、クランピングやワーケーション、サウナなどの人気も高いので、お客様のニーズや状況を把握した上で、今後について慎重に検討をして頂くことを期待する。

新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせ、入場者数が上昇傾向にあるものの体験者数は伸び悩んでいる状況。「ピザづくり体験」など新しい取り組みも行っていることから、今後も顧客目線でのサービス充実を心掛け、顧客満足度の向上に努めていただきたいと思います。何度も来たくなるような楽しい場所になることを期待します。

土と火の里公園ではコロナウイルスの蔓延により大きな打撃を受けました。5類へ移行したことによりこれから何をしていくかが鍵であり、その準備を確認しました。コロナにより受けた傷の回復を他人事にせず、多くの方の支えから始めることで今後の土と火の里公園の更なる盛り上がりにつながると思います。

今回の所管調査により自分が何をすべきかを再認識できたことを胸にこれからはしっかり生かしてまいりたいと思います。設営に対し尽力いただきました皆様に感謝申し上げます

工芸体験者数が減少していることがわかった。今後の取り組みとしては、民間との連携や鬼石地区にアート活動のため滞在している海外アーティストにも利用してもらうことで国外のPRも考えられる。また、市職員も積極的に利用し、職員と議員が個人のSNSなどを活用して、一丸となってPRしていくことも有効だと考えられる。

新型コロナウイルス感染症の影響についてと指定管理者の応募状況について説明を求めました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で4月・5月は、閉館されており入園者は例年の6%以下であったと説明を受けました。また、それ以降は、例年より低い入園者数で経営には厳しい現状と感じ、今後の指定管理制度で委託を行うのには大変な施設だと思いました。このような状況の中、指定管理者の公募がされており問い合わせ等の状況を聞いたところ応募者はいないと聞き、今後の施設の方針が心配されるところです。しかし、担当職員のアイデアと努力を重ね土と火の里公園のイベントや営業を行い経営の改善を計っておりました。なかでも夏祭りの工房イベントや自然体験ゾーンのBBQコーナーを設け、集客を計っておりました。

た。今後は、単体の施設で集客を求めるのには厳しいため、市内の施設や観光地とコラボして藤岡の魅力を紹介できる計画を行い、集客を呼び込む動線を描くことが必要と思います。山の南には、三波川の冬桜や三波石峡・下久保ダム等があるので総合的に考え、観光産業の充実を期待します。



土と火の里公園会議室にて説明を受ける



土と火の里公園内現地視察

以上のとおり、報告いたします。

令和5年10月20日

経済建設常任委員会

委員長 内田 裕美子

副委員長 中山 晴親

委員 栗原 大輔

松田 拓也

野口 靖

針谷 賢一